

〔日本紀神代抄〕第一三才開始事

南ハ午時ニハ日光高シテ、森羅万象皆ミユルト云義ニテ訓ズ、

〔日本書紀〕齊明二十六七年、伊吉連博得書云、辛酉年(齊明七年)正月二十五日還

到越州、四月一日從越州上路東歸、七日到檍岸山明

〔萬葉集〕十八教喻史生尾張少咲歌一首并短歌略  
於保奈牟知須久奈比古奈野神代欲里略  
兒爾略○中

右五月○天平感

元年○中

十五日、守○越

大伴宿禰家持作之、

〔夫木和歌抄〕十九建久七年韻百廿八首

定家卿

たちのぼるみなみのはてに雲はあれどてる日くまなき北のおほ空

〔類聚名義抄〕北補默

〔日本紀神代抄〕第一三才開始事

北ハキタル心也、北ヨリ一陽生キタル故ニ、如此訓也、

〔萬葉集〕二十九天皇○天崩之時、太后○持御作歌一首○中

向南山陣雲之、青雲之、星離去、月牟離而、

〔夫木和歌抄〕十九朗詠百首窓梅北面雪封寒

爲家卿

日かげみぬかた枝は雪にとぢながらかつぐにほふまどの梅がへ

〔運歩色葉集〕四角良異

〔書言字考節用集〕十量四隅又云、四維

〔和漢名數〕天文四維維是所謂方隅也、良北

巽南乾西坤南

〔萬葉集抄〕先達多以耶須彌志流は帝は八方を玄ろしめす義たるの由釋之、其義玄からず○中